

(4) 災害等の安全性に関する課題

ア. 災害指定区域の将来見通し

災害指定区域における平成 47 年の人口分布をみると、人口増加が見込まれる八幡や泉宮町など沿岸部が津波浸水区域となっており、特に泉宮町周辺は高齢者人口も増加が見込まれます。

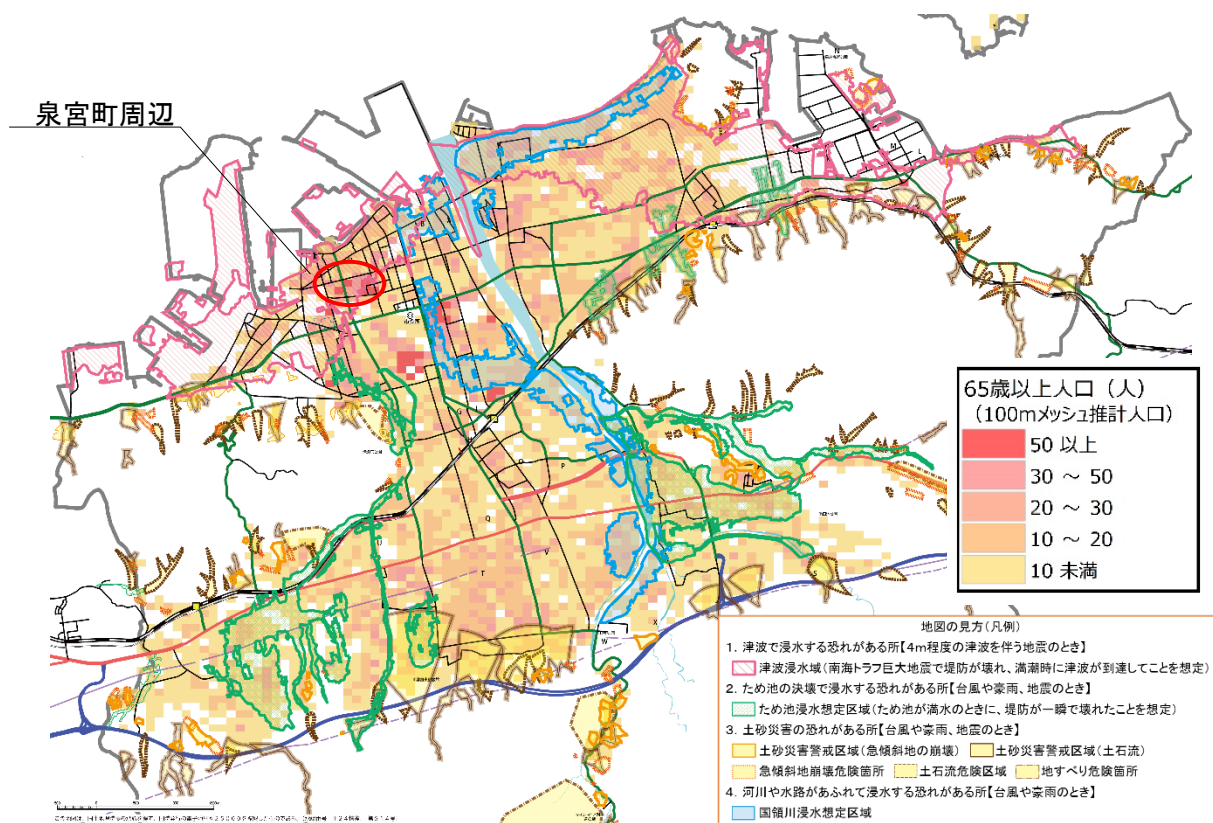
図表 災害指定区域と 100m メッシュ人口(平成 47 年)



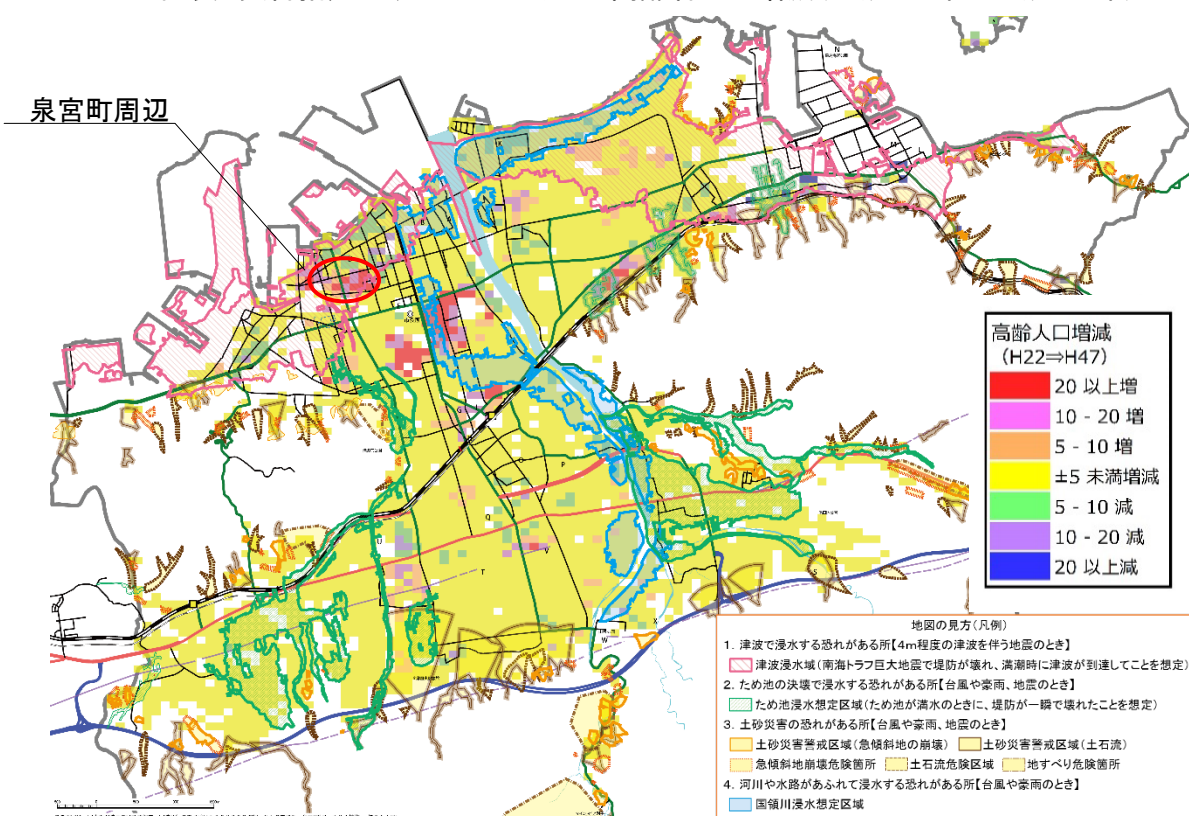
図表 災害指定区域と 100m メッシュ人口増減(平成 22 年→平成 47 年)



図表 災害指定区域と100mメッシュ高齢者人口(平成47年)

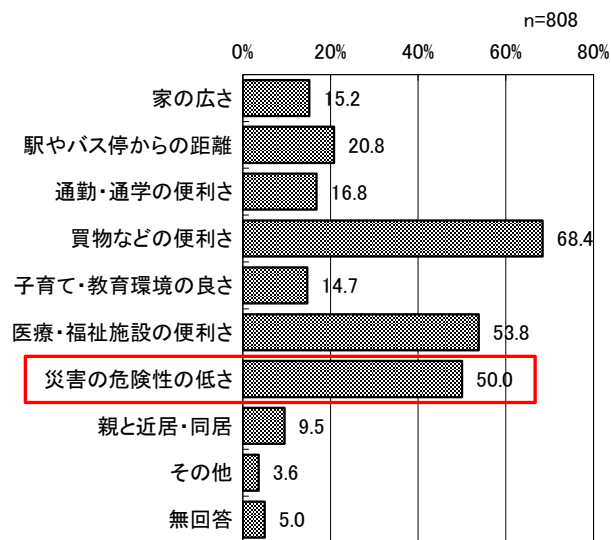


図表 災害指定区域と100mメッシュ高齢者人口増減(平成22年→平成47年)



市民意向調査では、他の場所に移る場合に重要視する条件として、「災害の危険性の低さ」を挙げる人が、50.0%と半数を占めています。

図表 他の場所に移る場合、重視する条件



資料:新居浜市立地適正化計画策定に係る市民意向調査 報告書(平成 29 年 2 月)

イ. 災害指定区域における課題

〔現状〕

- 津波浸水被害が想定される沿岸部は、人口が減少傾向にありますが、高齢者数はほとんど変化しない見通しです。
- 浸水深さ 2m を超える津波浸水想定区域は、中心部ではほとんどなく、多喜浜駅北部で多く広がっています。
- 国領川の洪水（浸水）想定区域は、中心部も含めて広範囲に広がっています。
- また、人口増加が見込まれる萩生周辺等は、土砂災害警戒区域に指定されています。
- 他の場所に移る場合に重要視する条件として、「災害の危険性の低さ」を挙げる人が、50.0%と半数を占めています。



〔課題〕

●災害想定区域から安全な区域への誘導が必要

- 津波や土砂災害等は一度生じると市民の財産だけでなく、人命をも消失するものであり、このような災害発生の危険性がある地域では、市民の生命・財産を守る観点から人口増加を抑制し、より安全な地域へ人口を誘導、あるいは、被害を可能な限り軽減する対策が必要です。